

揚州名勝覽圖卷二

二

291.643

40

2



橋磨名不巡覽圖會卷之二目錄

長田神社

長田里

盛後墓

駒林

忠度塚

まの橋

知章孝記園

まの池

お牛の畑

八幡宮後池

本社 八幡 親善 御供不
本社 村上 惣持

明泉寺

蓮池蓮

尻池

渡邊橋

白ひの梅

新賢忠記園

盗人松

お牛の二入墓

就尾向屋

義経推本

兵庫より諸方約程

○より石法

楠云碑へ 六丁

生田へ 北六丁

布引修へ 一里余

甚永修へ 三里

まやさんへ 二里半

もうげへ 三里

あーやへ 四里

西の宮へ 八里

尾の宮へ 七里

大坂へ 十里

系へ 十九里余

○トリスのり

和国卿へ 八丁

長田へ 北丁

須寺へ 一里半

一の谷

岩川へ 二里

あーへ 八里

三本へ 七里

熊谷へ 十丁里

○船着のり

むろへ 二十里

ともしへ 八十里

聖霊権現

勝福寺



須磨

初平庵

幸代寺

須磨寺

芭蕉庵

直羅川

二谷

大五輪石塔

落神

後負坂

松女塚

岩家

須磨の浦
日上寺

日月の松

教政薬師

中堂 廣平堂 鎌倉寺 十王堂 馬興堂
二王門 義経塚 松平寺 松平寺

慈雲院

村常雲跡

三谷

界川 攝州

奥畑佐氏家

大山寺

壺

山田

須廣

茶田氏家

重樹松

須廣 閑屋 須廣 閑屋

一谷 須廣 閑屋

梅ヶ鼻

本系石

壺水

鳥崎

多聞寺

大荒谷

源氏乃々
菅の井

綱安天神

光源氏旧跡

安徳天皇御宮

然谷東山三徳

塩屋

妹脊松

壺水神社

舞子濱

大荒谷

大荒谷

八幡宮

腕塚

赤羽神社

明石 日蓮門 日蓮門 日蓮門 日蓮門

月山

若樂寺

孤塚

惣門

密苑院

宝苑寺

赤石

朝霧陶器

彌九神社

西馬川

妙見社

岩屋神社

無量光寺

明石川

山王社

藤沙碇

坂上寺

松江

休天神

人麻呂社

本松寺

午後天王

日輪寺

皇子村

林村

十輪寺

枝倉神社

大久保驛

忠度塚

月照寺 音法塚

明石鎮城

所茶屋

長林寺

園部松

海士交換塚

船上城址

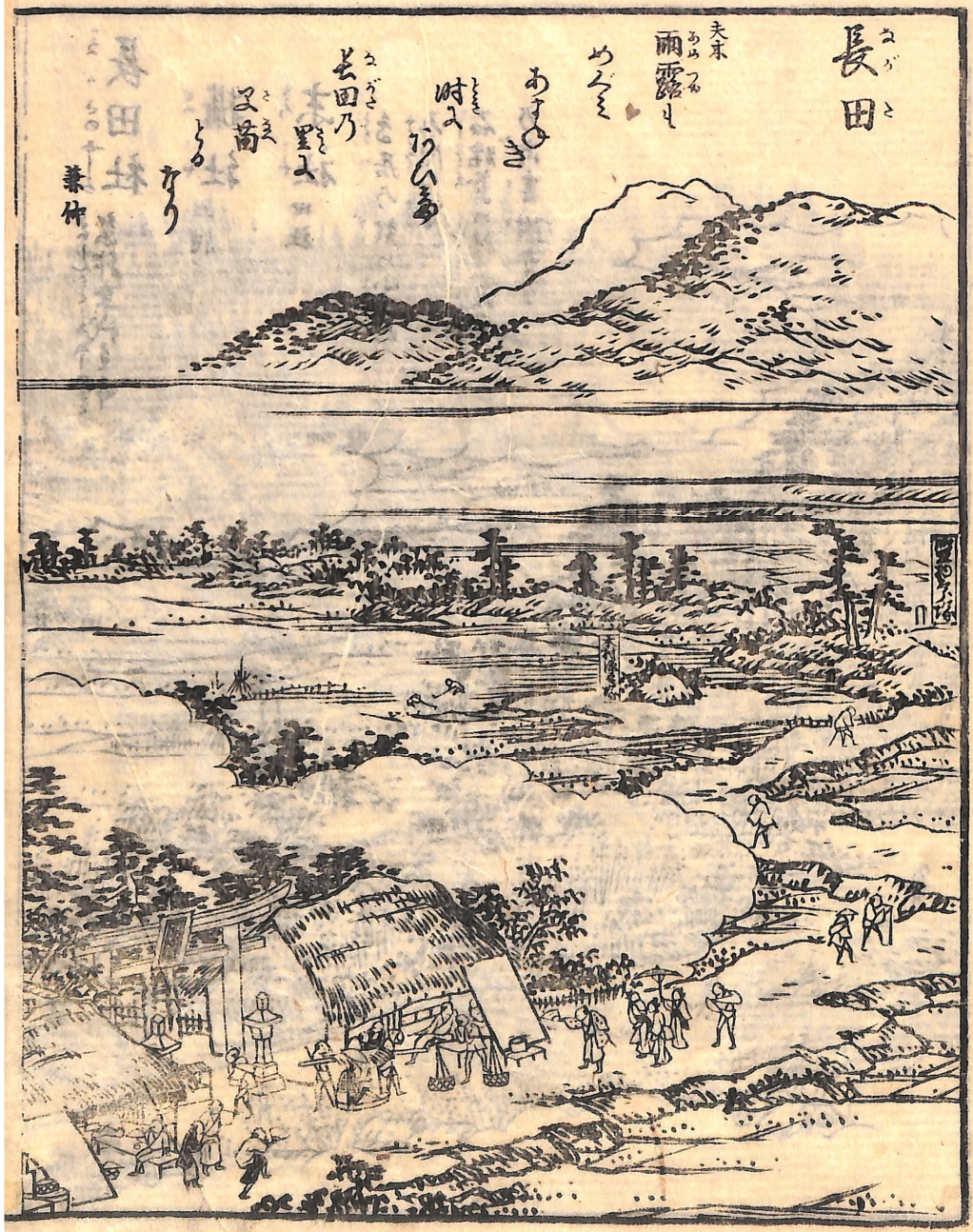
林村神社

和坂村

下津橋神社

大岡松

黒石明神	清水里	清水川	長江浦
江井が橋	魚住泊	名才隅船渡	急須燃法
佐吉神社	関伽寺	林崎池	如云寺
本堂 廣一堂 観音堂 三昧堂 虎の堂 三聖塔 鐘樓 山門	佐吉神社	榛谷燃跡	日輪寺 虎の堂 虎の堂
慶明寺	将法輪寺	八幡宮 日真社	修川燃跡
惣社	社乃權現	明王寺	性海寺
近江寺	津出燃跡	雄子尾唯子尾	最明寺 時れ
齒刻梅	本堂 藥師堂 虎の堂 三昧堂 鐘樓 阿弥陀堂 二層塔 奥院 赤松氏範墓	中清水	疾啼松
清水寺	瀧野 日川	光明寺	三神山古戦場
三神川	鳴尾山	引尾山	光明寺陳所
瀧野古城			



長田

雨露

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

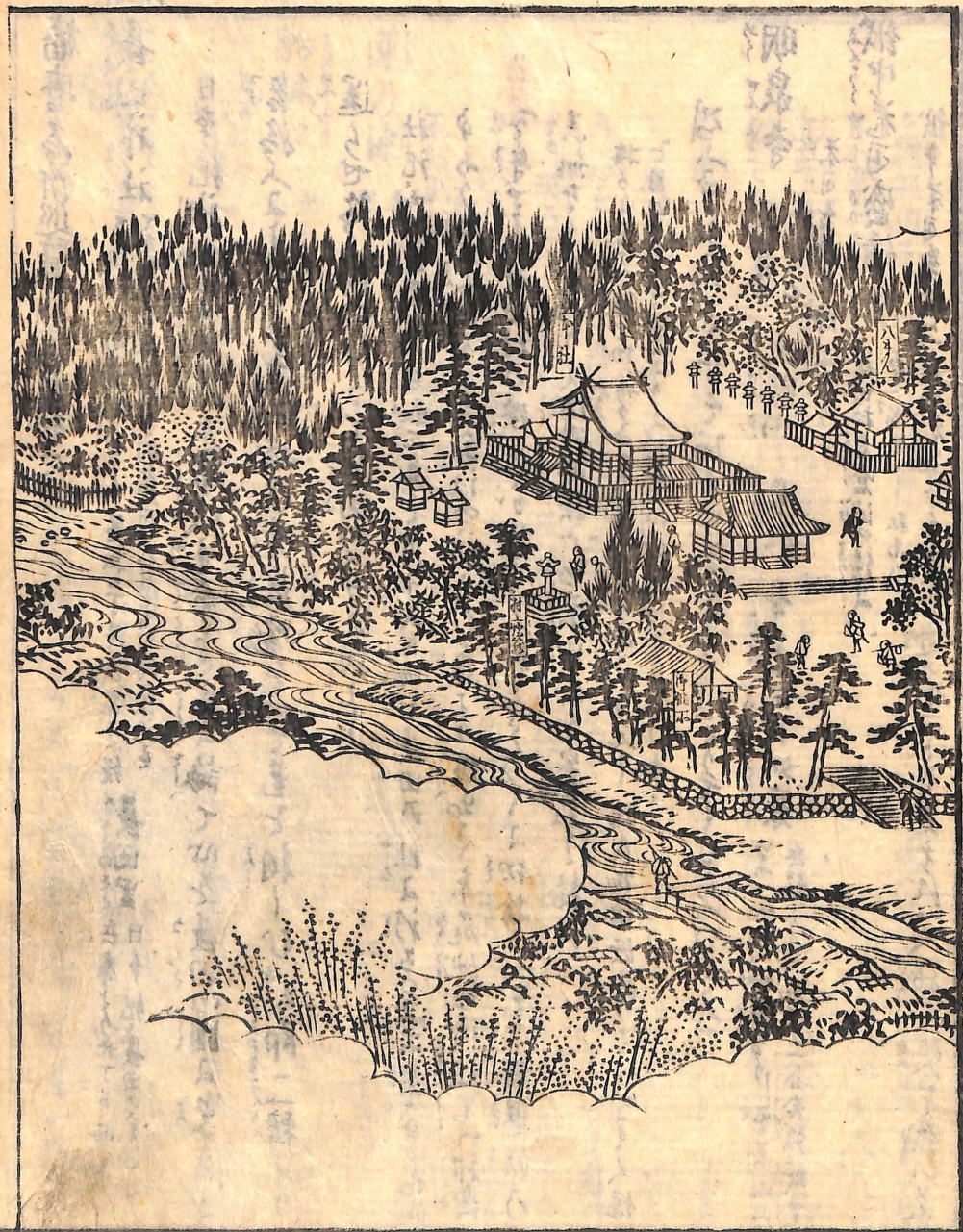
長田社 えんたのやしろ
 祭神 素戔嗚尊 すさのおみ

攝社 二所 しやうしや 二所

末社 二所 すえのやしろ 二所

石居乃家小中の
 石風の音 いしゐのけのこちの
いしのかぜのこゑ

石壁の村上天皇
 の御寄附あり いしのかむのむらあまみか
のみよつけあり



播磨名所巡覽圖會卷之二

所名

長田神社 長田村よりあり 樹石より蓋松三丁并氏家を経 長田里 日本紀長田の里といふ

日本紀 神功皇后記云 事代主命 皇后は諒て心を長田の國より來て

若孫人よりく 系山媛の弟長媛を以て是と相ひむ 云 即一轉より

還らせ給ふ所のよりて生田のより月ト

社記云 村上天皇 應和三年七月十五日雨と長田の社は雨の又大なるより

あり 蓋人散を三ふ余社の神より森より進出く 東尾池の神 藤石へ神樂

を穿てく 村田村の廣くてもかのもう人形とせんく 又切捨く 是三轉退治の

美似なりとあり 又け附西原廣の系田氏を宮家と給ひ

按う小蓋人散と切捨く 是蓋の後の進出く 一原氏物治 辰乃よりいふ人儀

と月よりく 又久より又和泉式部二月よりいふあり

明泉寺

長田村の 天照山と号し 奉る大日如來 寺記より蓋人散す一谷合殿に神中

神中系田蓋人散

長田村名倉池の傍に

神中系田蓋人散一谷の御殿より進出く 是より見え給ふ一人給て進出て然いふ

所名

駒林

駒林は長田の村をより 駒をね林のよりあり 光原氏のより 駒を今二葉のねを云て駒の

いふへ駒の林のねをいふに 駒をいふに 駒をいふに

薩摩守忠度塚

駒林のよりあり 但一忠度乃腕塚の明石より腕塚町

ともつり 西のより大ぬきとげ辰乃より西へにて進出く 是よりいふ



知章
孝元
於賢忠死

馬場池
 こまろ
 馬場



三六





須磨寺

今防舎
十二宇

須磨寺様

此花江南所無也一被於折盜之
輩若任天永紅葉之例伐下被
者可剪一指

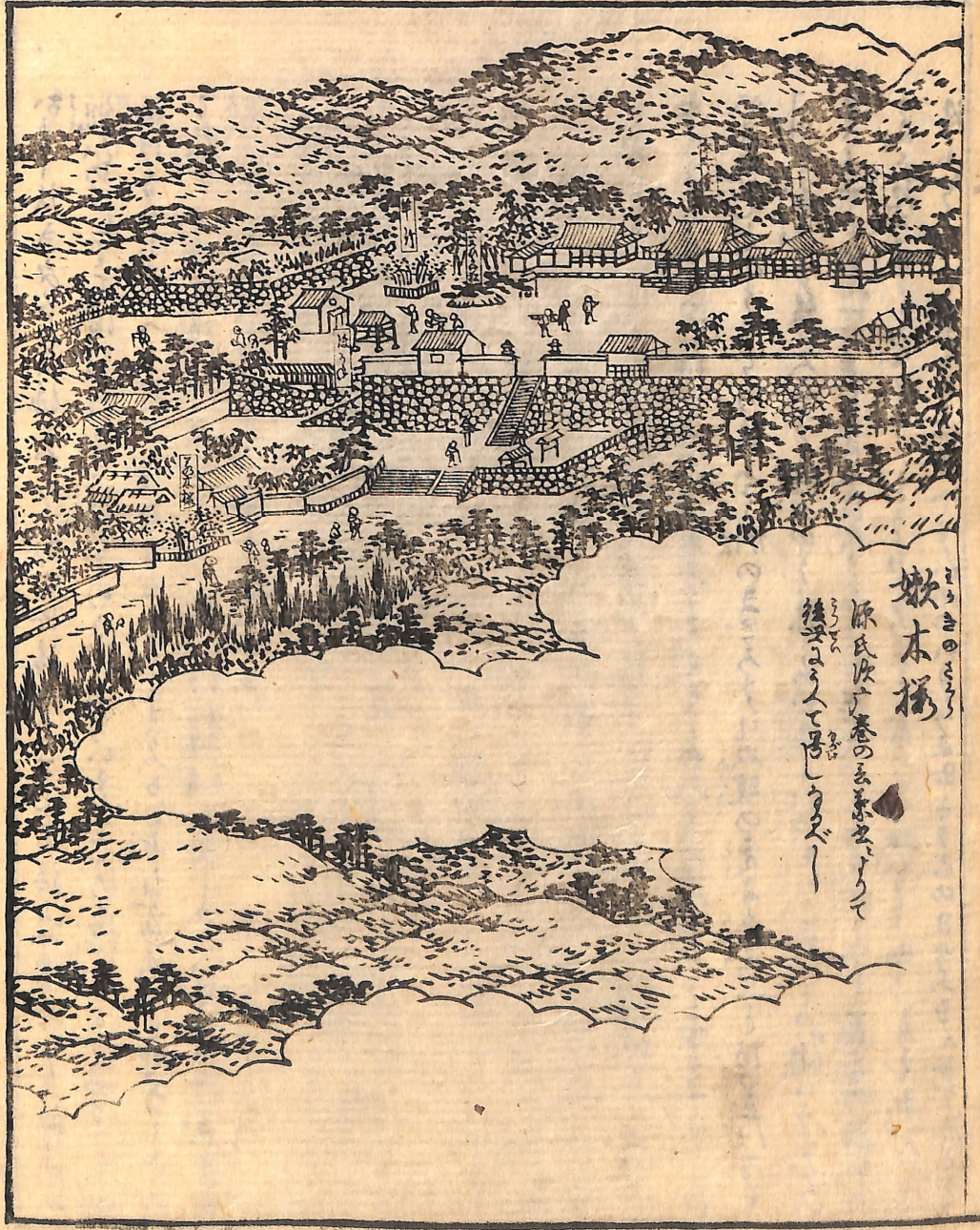
奇永三年二月二日

此花の葉若木の様に
削れしなり



歟本様

源氏流の巻の云葉虫よりて
後さうして居しうべし



[illegible]

須磨之齋

西次上の象毎より
なる表よりぞにとうる

是二谷内重の遠風^{どうふう}とくふらんきつあぶら又

浦の塩屋のいふへのおうたふとまきう既に葦束芦屋の名に葦の家あり
をいふ葦束武都の秋よりいふう浦の葦やの葦とぞれ更にとけて浪
雨より表は遠風うがねおしく竹うんもり

在原躬平院恒事

一、流又東、溪廣、西、溪、廣、の、間、多、と、葛、蒲、小、溪、と、ふ、を、重、蹊、之、と、い、ふ、也、
其、流、う、う、う、と、北、を、擊、つ、り、を、國、史、に、記、載、し、也、

古今集

田村の清附よりよりてはのくよりすまよりより
よりよりよりよりよりよりよりよりよりよりより

ひくらは、同（く）人あつぐまに浦（うら）よりやれたまふと著（しる）へよ

といふものゝ遷うつりゆきなりともいふは何事なニ帝ミカド乃すなはち
わくまをとりし程ほどの事ことなり

初平月見

東原广の山の尾崎又古松の云樹七株
あり原广の圃の一壘の尾崎此又あり

○夜懸松

○因幡遠山松

○
固^い情^む藥^{やく}師^し

○松風村雨舊吟

先づ此後世の戯作なりとの又磯訓ねいふまゝも
磯よ訓うねをうけとらふかゞうきうき

續後拾遺名

とまの浦や渚よりそりれ松花月えは波のうへに目とぬき

松風村雨乃幸

二谷の後、梅州界の山陰より
田井畑と云ふ石の墓の北に

准后親房記云
 惣持尾家久の徳王の

みちなり熊王が母の田井畑とふふ所の美女なりけり里の松尾村雨の物よりふふく著より

悪女は、
はとて一
たふ材用村雨に元僕が國境外へ去りてゐる者の娘に終無の漢

[illegible]

くまをむと尋ねるを

白波のよとれなきとて世にふくまふのあはれにあらん定めぬ

とよもくまぎれぬ云 光朝古今類の下に引出たり

人々

[illegible]

菊田氏家

西次、西次の里長、里長神功皇后の御時、神功皇后の御時より、より土佐と云々、土佐と云々家室、家室教養を攝州國令々委一

事代至神福

三韓^{さんかん}膠^{かく}滬^ふの角^{かく}所^{しよ}凱^{かい}陣^{じん}を築^{つく}て之^{これ}より世^よ後^ごの如^{ごと}く雲^{うん}圖^ずする幸^{さい}代^{だい}を命^{めい}ずと述^のぶ(墜^{たい}と

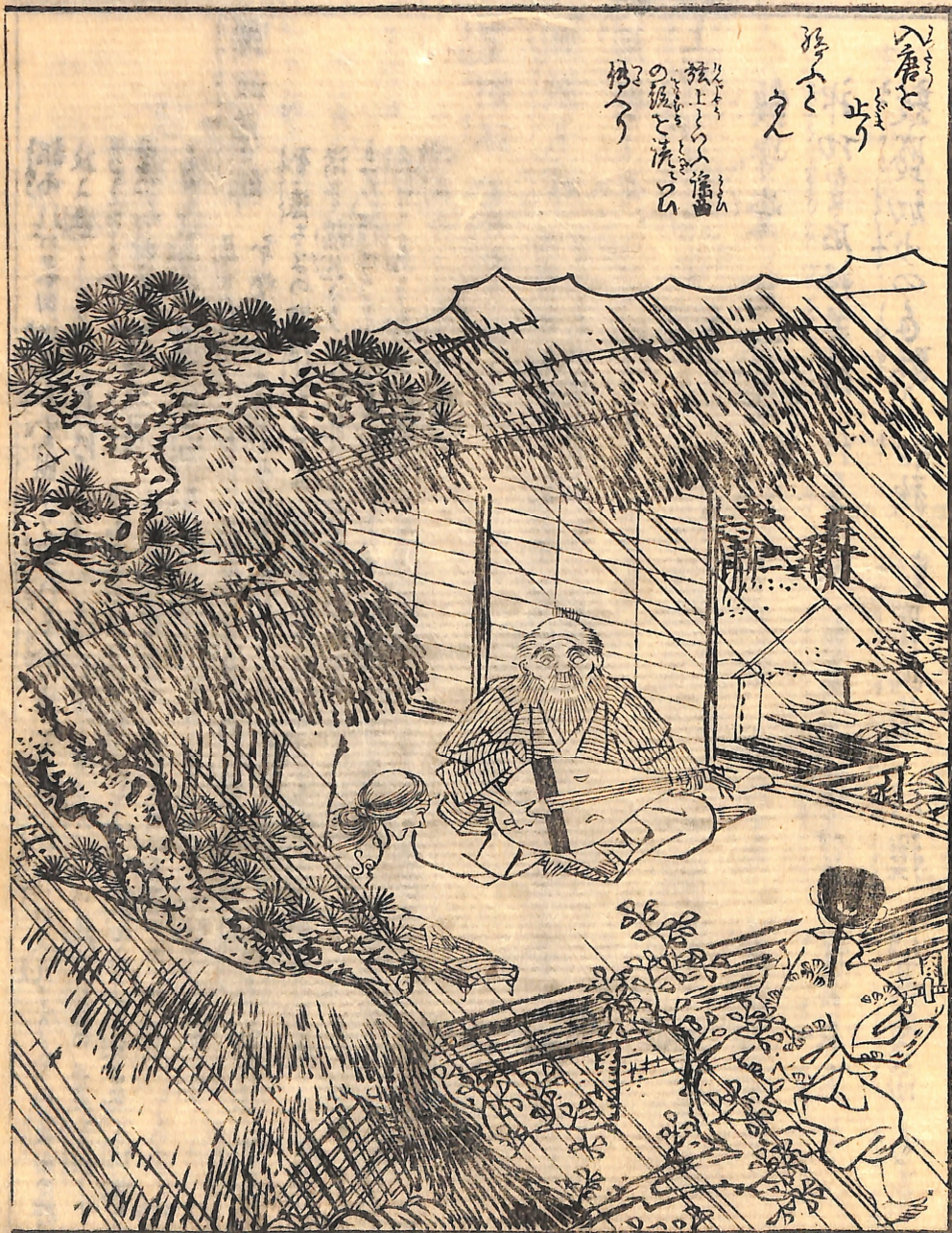
村上帝霊蹟

上人の目むしる政大臣屋敷
 師長と琵琶の達人を演劇
 一好むと人々を橋上の名経
 と携へけ浦とまゝり給ふを
 村上天皇御本堂皇女の霊魂
 降つれんと止め妙宮
 うり獅子丸

名経と
 掛け
 うふ
 これ
 天皇
 あり
 妙宮と
 獅子丸



入唐と
 歩
 孫と
 え
 孫と
 孫と
 の孫と流と
 佛と



[illegible]

重衡松 蓬柳堂乃西より

綢敷天津

所名

上野山祥

鎮守堂

十王堂

義經腰掛玄

神功皇后御筆所

敦盛赤旗名号

保昌衣名号

敦盛細少の白紙乃

禮 レウ

月高藤田 五葉

光源氏

いまだあきら

ふれぬりて筆を
ゆゑいづ御らんぞ

浦子新

33

張子

— 22 —

三

のうへ

そやけを

方

三

2

見後



八幡宮



田の舟の畑



李元曰

光源氏舊跡

芭蕉翁台碑

風月菴如雲跡

ハヤ

田圃とありて名のと違ふなり

萬壽
寺

源光寺の西樹石の左右二一催の
墓あり是と云ふところ燃燈堂に

洪語

江創述

所君

今か懐乎は「それならさう懸惟(けんゐ)と云ふ」が、ひのひの國の性やきとも前より又明石より
西へ向つてうへへは五十里と云ふ所をこれを経て次實兩の方へ移りゆくに當りて人々

すまへ

源廣ふ酒より流る國産
四張雪のそ中縁と云ふ所

ふ多川の西乃河ふなりエヨ日に行なり
天皇のまゝ靈をまつるなりとぞ

は皆長とに丁余撰二十箇答にす。彼方隠まゝ六十に召余ニの答ふ。あるの召にす。は皆長とに丁余撰二十箇答にす。彼方隠まゝ六十に召余ニの答ふ。あるの召にす。は皆長とに丁余撰二十箇答にす。彼方隠まゝ六十に召余ニの答ふ。あるの召にす。

二十
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

勝其

八
時
より

と城戸仁

續

深山

救万艘

新編
つと
ふ

平家へいけの

